

地、建物を行っているので、スポーツ局がマスタープランをまとめたが、名城公園は愛知県の建物姿しかない。

高橋の解説: 愛知県のアリーナの建築審査は、愛知県でなく、名古屋市が行う。名古屋市の都市計画に従って審査する。今の名古屋市の都市計画では、この愛知県のアリーナは、違法建築となる。工事などではしない。以下に具体的に質問を展開した。

5 まちづくりの取り組み

交通・アクセスに関する取り組み

- 近隣住民や公園利用者に最大限の配慮をする。
- 運用面の工夫と整備を組み合わせた対応を図る。
(対応例: 地下駐車場の整備、公共交通機関の利用促進など)

防災に関する取り組み

- 体育館を緊急物資集配拠点として活用する。

公園整備のための行政手続き等

- 公園内一部道路の廃道などにより、一般車向の進入を抑制して、安全で快適な公園としての空間を創出し、公園利用者が安全に利用できるようにする。
- 特別用途地区「スポーツ・レクリエーション地区(仮称)」を都市計画決定し、観覧場等の用途制限を緩和する。
- 公園の整備に伴い、一部用途地域等の変更を予定する。
- 必要条例を改正し、運動・教育施設等の建築面積の割合、運動施設の敷地の割合を緩和する。

特別用途地区
スポーツ・レクリエーション地区(仮称)

公園内一部道路の廃道
一般車両の通行規制

用途地域等の変更
第2種住居地域への変更
(31m高度地区への変更)

凡例
第1種中高層住居専用地域
第2種住居地域

上記は、行政手続きを予定している範囲を示す。

② 瑞穂運動場では地域地区の変更準備を1年前から行っており。令和22年に向けて、今後20年かかりのマスタープランを昨年7月住民向けに出し、この8月5日ようやく都市計画審議会で決定した。のは知っているが、総務局は、名城公園も同時に行ったと住民に説明しているが。

答え: 同時に名城公園も、スポーツ・レクリエーション地区と指定した。「第二種住居地域における運動施設の観覧場の増等の緩和。」が目的であり、これから条例で内容を定める。

高橋の解説: 瑞穂運動場25haは第二種住居地域であり、水泳場、スケート場、競技場などのスポーツ施設はOKだが、アジア大会、グランパスのホームグラウンド、宿泊と、お金を稼ぐために観客席を増やすと、金稼ぎの商業施設とみなされ、住居地域に合わない。よって、観客数を緩和すると明記したスポーツ・レクリエーション地区を特別地域として新設した。従来の都市計画の網をそのままに、また新たな網をかけた。

名城公園も、第二種住居地域にある大きな都市公園22haであり野球場もあるので、同じ網掛けをしたのであった。愛知県のアリーナへの対応ではない。瑞穂運動場は、屋根のないスタンドであるが、名城公園のアリーナは、屋根がある興行場となるので、名古屋市の日本ガイシアリーナと同様の敷地条件がいるが、名古屋市は手を打っていない。

③ 愛知県のアリーナの興行場と言う機能、高さ41m、建築面積26000㎡は、都市公園内(建ぺい率3%)に作れないので、都市公園から敷地4.6haを外す、都市計画審議会の決定はしたのか。

答え:NO



◎ 建築概要				◎ 座席計画 (一例)	
建築面積	26,700 m ²	構造	鉄筋コンクリート造 鉄骨造	大相撲	11,000 席
延床面積	58,400 m ²	階数	地上5階建	バスケットボール	15,000 席
最高高さ (メインアリーナ天井高)	41.0m (30.0m)	最大収容人数	17,000人 (立見含む)	フィギュアスケート	14,100 席

- 所在地
名城公園北園の一部
(名古屋市北区名城一丁目内)
- 面積 約 4.6ha
- 管理者 名古屋市
- 土地所有者 国(東海財務局)
- 区区分 市街化区域
- 用途地域 第二種住居地域
- 建ぺい率 60%
- 容積率 200%
- その他
31m高度地区、第一種風致地区など

④ 公園PFI 事業として名古屋市が行うのか。

答え: ナシ

高橋の解説: 事業は愛知県が行うのは間違いがないが、公園 PFI なら、公園管理者の名古屋市しか事業はできない。すなわち、公園の面積の10%まで商業施設を作るといふ公園 PFI でないなら、名古屋市の管理地である都市公園を、都市公園から外して愛知県の管理地とするしかない。

⑤ 愛知県のアリーナは、運動施設でなく、観客席17000をもつ巨大な興行場であり、第二種住居地域に建てられないと思うが、商業地域に都市計画審議会で変えたのか。

答え: NO。屋外競技場の観客数の

増の為に、スポーツ・レクリエーション地区を定めた、のみ。

⑥ 名城公園は、陸軍の練兵場であった。戦後、名古屋城の史跡としての整備と併せて「歴史的な風致を守る公園」と定めた。第一種風致地区である。公園から、この敷地4.6haを切り離すだけでなく、風致地区(建物高さは15m以下、建蔽率は30%以下)の指定を外さないと、愛知県のアリーナ、高さ41m、建蔽率は57%は建たない。

答え: なにも議題にあがっていない。



風致地区のままでは、愛知県のアリーナは建てられない。




⑦ 河村市長が、二の丸から出ていけで始まり、二の丸のその跡地利用は定まらないまま、名古屋市の都市計画として、折角の大きな公園を他に小さく3つを代替で確保するから良いというのでは、都市経営

100年の計、大失敗となる。金メダル齧り爺さんは、4年たったら消える。行政に関わるものとして、いかがか。

⑧愛知県のアリーナなら、昔の金山体育館、今のホールの後にとか、港のイタリア村の跡とか、他の候補地もあろうが、検討もすることなく、金メダル齧りの爺さんが「名城公園へ」と言ったら、それにまっしぐらでは、都市計画がない。いかがか。

愛知県のアリーナ建設地を名古屋市の中で探しました。D・E案です。比較に名古屋市総合体育館

	D案 金山体育館跡に再び	E案 名古屋港、イタリア村跡	参考 日本ガイシホール 名古屋市総合体育館
	名古屋市は、地下駐車場を持つ北沢公園0.5haと市民会館を壊して、超高層ビルの構想を作成している。さらに民有地も加て、15000席のアリーナを置いてみた。	名古屋港管理組合(名古屋市と愛知県)は、イタリア村跡を「緑園」として整備した。駐車場に15000席のアリーナを置いてみた。「都市公園」にはせず、以後の開発の余地を残している。	帝人名古屋工場の跡地に、1987年名古屋市が作り、レインボーホールと名付けたが、2007年命名権を日本ガイシに売った。30年を経て、大改修の工事中。2020年7月完成予定。アリーナ型1万席。
都市計画地域	商業地域	商業地域	準工業地域
配置図 建物用途 興行場 建築面積 2万㎡ 延べ床面積 4万3千㎡ 4層建て、 建物高さ31m 固定席 11,000席 可動席 3,000席 仮設席 1,000席 合計 15,000席 アリーナ 4,505㎡ 5.3m×8.5m	  ムリクリの配置であり、1万席の日本ガイシホール程度しか、ここには入りそうもない。	 「都市公園」にはせず、以後の開発の余地を残している「緑園」  「緑園」のデザインと合わせて、アリーナはもっと大きくできようか。	 アリーナ面積3,646㎡ (49.4m×84.4m) 固定席5,000席 可動席2,000席 移動席3,000席 合計 10000席 真円なので席数が少ないが、幅は少し小さいだけ、コンサートにはコテラの方が良いのかも？

高橋の解説:ここで、彼の答えを書くと、彼に差しさわりのがあるので書かない。

⑨緑政土木の今年2月の「みどりの町づくり」に、名城公園の緑を廃して、アリーナを作るなんてない。公園の大綱も都市計画審議会ではないか。

答え:緑政土木局のマスタープランに、愛知県のアリーナはない。

以上です。予想通りでした。

